



従業員の集合写真

調理道具・工業製品表面の加工処理一筋

株式会社 マチヤ

事業内容と沿革

フッ素コーティングを強みに 全国に販路拡大

金属の表面加工およびフッ素樹脂加工を専門として平成2年に創業した。より長く安全に使えるよう、表面塗装がはがれた金属製品への再コーティングの技術を上げるために、社員同士で活発に意見交換してきた。現在は、釜や洋菓子型など、食品加工工場のライン向け製品の売り上げが全体の約60%を占め、配管やダクトなどの工業製品向け塗装が約40%を占める。

フッ素樹脂加工の幅広い用途を生かし、常に新しい市場の開拓を図っている。「低価格、短納期、小ロット対応」をモットーに、顧客の細かいニーズにも柔軟に対応する。平成27年より、受注対応エリアを関西一円から全国へ拡大した。全国の食品製造業界をはじめ、工業系製造業界での天板やコンベア部品など、表面摩耗が激しい製品を改善し、新規顧客からも好評を得てきた。

ソフト面では、従来の人事を一新し、女性の工場長を任命した。大東俊隆社長は、「男性主体の塗装のイメージを変えたい」と考え、丁寧できめの細かい仕上げ技術を引き出し、品質を向上してきた。現在では、「低価格ながら丁寧な仕上げ」と口コミが広がり、新規顧客の獲得へつながっている。資源を有効に再加工する「Machiya quality (マチヤ・クオリティ)」として全国に販路を広げている。

強み

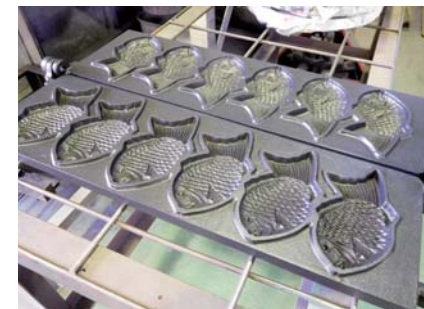
多様な塗装技法や塗料で 耐久性の高い製品を提供

硬度のあるセラミックス塗料を使用しているため、耐久性の高い金属表面処理を強みとする。また、紫外線、高温、腐食性ガスやヘラの仕様などでキズが付きやすい食品用金属製品は、塗料の劣化が激しく、通常は厚塗りに対応する。ただ塗料は、乾燥すると塗膜に微細なピンホールを作りながら揮発していく。1層の厚塗りでは早期に水や酸素などと反応して塗料や機材が腐食しやすくなり、耐久性が低下する。そこで同社では、耐熱性のある撥水性の高いフッ素樹脂など、多種の塗料を目的に応じて多層塗りし、ピンホールを基材の表面に達しにくくする。さらに、これまで培ってきた独自技術で塗装や乾燥方法を工夫し、溶剤の揮発によるピンホール数を最小限にとどめるなど、塗膜の耐久性を上げている。これにより、耐久性は通常の厚塗りに比べ約2倍を実現した。

塗装分野は液体が約40%、粉体が約60%で、用途に応じた塗装技法や塗料を用いた表面処理を施す。現在は食品分野で、炊飯ラインでの炊飯釜からコンベア部品までに関する部品やパン工場用の焼皿などがメイン。工業分野では、配管やダクト、薬液タンクの内面やシーズヒーターの表面コーティングを手がけている。



本社外観



たい焼き機



塗装製品

短納期
対応

多品種
少量

企業対応から家庭対応まで 事業拡大



代表取締役
大東 俊隆さん

食品機器や調理器具、工業機器などの新品や使い古した部品にフッ素、セラミックス、遠赤外線塗料、粉体塗装などの焼き付け塗装により、金属表面処理コーティングを手がけています。異なる塗装技法や多くの塗料を使い分けてさまざまなニーズに対応し、納期対応を含め、お客様が納得のいく製品を提供しています。今後は、一般家庭向けにも製品の再加工の認知度を上げていきます。フッ素樹脂加工でよみがえらせる製品を手がける業界へ、「リペア(再加工)の重要性」を発信し、あらゆる業界へ営業活動を進めていきます。

主な事業内容

金属表面処理

主な取引先(納入先)

ダイキン工業(株)、東京熱化学工業(株)、(株)扇商會、オキッモ(株)

【住 所】〒571-0002 大阪府門真市岸和田2-21-3
【TEL】072-800-8410
【FAX】072-800-8420
【創 業】平成2年2月 【設 立】平成24年7月
【資本金】300万円 【従業員】7名

カドマイスターの取り組み

熟練技能の継承に 女性工場長起用

塗装対象物のほとんどが定形ではなく、用途が多様であるため、製品の特徴に応じて塗装技術を継承している。表面に砂などの研磨材を吹き付けるサンドブラストも、対象物の材質、厚みと形状によって圧力や角度の調整には熟練の経験が必要となっている。技術の継承に女性工場長への期待は大きい。「顧客のニーズに合わせ、丁寧できめの細かい作業」で製品ロスの減少を目指す。

得意の再コーティングで差別化

使い古した金属部品にフッ素やセラミックス塗料などを再コーティングする技術を高めてきた。「顧客は新しい製品を買い直す必要がなく、表面処理のみの注文で済むので、コスト削減につながる」メリットを大東社長は強調する。同社が手がける表面処理の約80%が再コーティング。製品の表面に油脂が残留しているため、脱脂のための燃焼時間が長いに加え、基材自体も長年の仕様により劣化や消耗が進んでいる。そのため、基材を傷めないように再コーティング製品の状態を見極め、サンドブラストの条件や作業時間を適正化する。

今後の展開

販路拡大へ社内の人員を強化

今後は、主な取引先である食品製造業界や工業部品製造業界への販路拡大に加え、炊飯釜やオーブントースター、オープンレンジなど、一般家庭向けにも、金属製品の表面再加工のサービス提供を進めていく。ピンホールを基材に達しにくくする多層塗りの技術、細かいニーズに合わせる柔軟な対応力、耐久性を上げる高品質、さらに手間と時間のかかる既製品の再コーティングの技術を強みに、口コミを中心に全国へ販路を拡大してきている。

さらに対応力を高めるために、今後は社内の体制強化を図る。「従業員は、製造部門で現在の4名から2名増員、営業部門へもさらに1名増員し、中長期的には工場の拡張も図りたい」と意気込む。その中でも同社の得意とする「小回りのきく対応力」を高めるために、女性の技術者を呼び込みたい考えだ。「現場の夏の暑さや重たいものを持ち運ぶ作業」に対し、女性工場長との意見交換などを通して働きやすい環境整備を進めていく。

